

2021年9月6日

株式会社博報堂DYホールディングス

**博報堂DYグループ、言葉の壁を超えたテックエンタメコンテンツを共創し、
グローバル展開を目指す「株式会社HYTEK」を設立**

株式会社博報堂DYホールディングス（東京都港区、代表取締役社長：水島正幸）傘下の出資目的子会社、AD plus VENTURE 株式会社は、最新テクノロジーを持つベンチャー企業(以下、テックベンチャー)と共にテクノロジーを用いたエンターテインメント（以下テックエンタメ）のコンテンツを共創し、グローバル展開を目指す「株式会社HYTEK」（以下、HYTEK）を設立いたしました。

コロナ禍の環境の中、エンターテインメント業界はリアルイベントの自粛要請に伴い、大きな影響を受けました。その状況下でも、オンラインでのライブ配信やバーチャル空間でのイベントなど、テックベンチャーが開発したテクノロジーを活用した新しい体験が生まれてきています。この領域の変化に対応し、海外も含めたビジネスチャンスと次世代のエンターテインメントを創出することを目的として、2020年7月にHYTEK 設立準備室を設置。テックベンチャーや様々なクライアントと共にコンテンツを共創して参りました。



コンテンツ事例動画：<https://youtu.be/fy0CjsOvJXQ>

HYTEK はエンターテインメント領域においてテックベンチャーとのパートナーシップを元に、彼らの持つAR/VR 技術やホログラム、プロジェクション、LED 造作などの最先端テクノロジーを活用した非言語のコンテンツを共創し、グローバルで通用する新たなエンターテインメントを展開します。日本が誇る素晴らしい技術がグローバルでさらに評価されるためのサポートを行います。

会社設立にあたり、テックベンチャーやアーティストの技術を基盤に新コンテンツを開発する「①テックエンタメ共創事業」、テクノロジー領域とエンターテインメント領域で新たなコンテンツや企業の目利き、育成を行う「②テックエンタメキュレーション事業」、様々な技術を収集・分析し、テックエンタメというカテゴリーの確立や発展を目指す「③テックエンタメ R&D 事業」の3つの事業を柱とします。またこれらを推進していく上で得られた知見やノウハウをもとに、クライアント企業のテクノロジーやエンターテインメントにまつわるコンサルティング、共同のコンテンツやイベント開発を行っていきます。

また、世界の最先端テクノロジー×エンターテインメント例を研究し、演者・観客・作り手・企業・社会にとってより良いエンタメ業界の未来予想図を描いていくプロジェクト「TEK-ENTM-LAB (テックエンタメラボ)」を設立準備中です。10月の開始に向け、このプロジェクトの研究生候補を募集しています。

詳細 URL : <https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSecTkX-nXVYSMS2ogxSpEqy52NjKLi98Mqn-HSOMrPMEtqoxg/viewform>

HYTEK はテックベンチャーの保有する高い技術力と、博報堂DYグループの持つクリエイティブ・PR力を掛け合わせ非言語のコンテンツを共創し、グローバルでの新しいエンターテインメントの展開を目指します。2021年を次の時代へ幕開けとして、日本が誇るテクノロジーで世界のエンタメ業界を更新していくことを目指します。

【会社概要】

HYTEK は、パートナー企業と共創したコンテンツが集積する、テックエンターテインメントレーベルです。“HY”は人々を熱狂させるという俗語“HYPE”に、“TEK”は“TECHNOLOGY”の略語として1990年代に米国の音楽プロデューサーが使用した俗称に由来しています。世界に認知されていない「ハイテク」な技術を、クリエイティブとPRの力で「言語の壁を超えた」エンターテインメントコンテンツへと昇華し、その魅力を世界中へと発信します。

Web : <https://hytek.co.jp/>

- ・社名：株式会社 HYTEK (ハイテク)
- ・本社所在地：〒107-6322 東京都港区赤坂 5-3-1 赤坂 Biz タワー
- ・資本金：1,000 万円 (資本準備金 1,000 万円)
- ・体制：代表取締役 満永隆哉
代表取締役 道堂本丸
- ・設立日：2021 年 9 月 6 日

<本件に関するお問い合わせ先>

博報堂DYホールディングス グループ広報・IR室 西尾・戸田 03-6441-6161
(事業に関するお問い合わせ) HYTEK info@hytek.co.jp

<参考資料>

HYTEK がテックベンチャーと共創したコンテンツ事例

○RECORD MUSIC VIDEO



RECORD MUSIC VIDEO（※日本特許出願済）は、アナログレコード盤とスマートフォンを組み合わせることで初めて視聴が可能なミュージックビデオシステムである。動画の再生に特殊なアプリは必要なく、レコードプレイヤーとスマートフォンがあれば誰でもコンテンツを楽しむことができる。33RPM や 45RPM など所定速度で回転するレコードと同速度逆回転する無音映像を制作し、これを回転するレコード上に載置することで初めて映像視聴が可能となる。スマートフォンを載置する際には、市販のレコードスタビライザーを利用。レコードプレーヤーの上から覗き込み、スマートフォンの画面が円形に広がる映像の世界を切り取る、不思議な視聴体験を提供する。本システムの第一弾を「Shin Sakiura / komorebi feat.BASI」の7インチレコードに提供、ソーシャルホテル HOTEL SHE, OSAKA と連動しフロントでの貸出や販売を行った。また、若手アーティストに過去の名盤レコードに MV を開発することにより、昔のレコードの再発掘プロジェクトにも利用されている。

Web : <https://www.recordmusicvideo.com/>

○NO MASK FOR ENTERTAINMENT - LED MASK



mplusplus 社独自開発の LED MASK を用いたパフォーマンス作品。従来マスクはパフォーマンスの表現を抑圧してしまう存在であるが、独立した LED が無線で同期し、表情や音楽表現の拡張を可能にする。エンターテインメントや楽しむ気持ちにマスクをする必要はないかつ、ウイルスへの対策は行いながらも、楽しむ方法はまだまだ沢山存在するはず。革新的な表現が生まれてきたのは、いつだって人々の前に大きな問題が立ちだかっただけの時である。世の中が暗いときこそエンターテインメントが、正解の見えない世の中を明るく照らすと信じ、本作品は制作された。

Web : <http://www.mplpl.com/works/863/>

○SOUND SYNC MUSIC VIDEO



サウンドシンクミュージックビデオとは、ラジオ・ストリーミングサービスなどから再生される特定の楽曲をきっかけに、同期した映像コンテンツを手元のデバイスで自動再生させることで完成する、新たなミュージックビデオ体験。専用アプリを開いた状態のデバイスが楽曲の中に埋め込まれた特殊な音を自動認識すると、口や楽器の動きと連動したシーンの映像コンテンツを再生。楽曲が途中から再生された場合でも、対応するシーンから映像コンテンツが自動再生される。第一弾は千葉県のアーティスト THE NUGGETS の楽曲”やってみなけりゃ”を配信。千葉県 bayFM のラジオ放送に連動させ、ラジオ連動型のミュージックビデオを実現した。プロダクションは BUDDHA INC.が担当。

Web : <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000066599.html>

○三田祭 テクノロジーコーディネーター



コロナ禍の影響を受けオンライン開催となった慶應義塾大学の文化祭「三田祭」の企画「ケイオウジェニック」にテクノロジーコーディネーターとして協力。その様子は2020年11月23日(月)にオンラインにて配信された。HYTEKのパートナーであるステージテクノロジー集団 mplusplus 株式会社と共にパフォーマンスの演出を行った。感染症対策のためマスクを着用する必要があった学生パフォーマー達に、mplusplus のオリジナルプロダクト「LED マスク」を提供。また、三田キャンパス東門の踊り場には無線式 LED ポールを設置し、キャンパスを幻想的なステージへと変貌させました。

Web : <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000005.000066599.html>

●宣誓文：「RE-LABELING.」

「かつてのジャパンブランド。」

戦後の高度経済成長期、急速に育った日本の技術は世界を熱狂させ、この国に確かな豊かさと世界中の羨望の眼差しをもたらしました。マンガやアニメが海を越え、それらが日本の機器で再生され、コンテンツに魅了された観光客が日本に溢れ、「メイドインジャパン」ブランドのタグやラベルが、様々な領域で品質の担保になっていた時代。この国で育った「職人気質」は細部までのこだわりや奥ゆかしさを、他者を思いやる「おもてなし精神」は人間中心の設計を。これらのこだわりは日本の様々なコンテンツに注ぎ込まれてきました。

「2021 がゴールにならないように。」

2021 年の夏が終わり、感染症が世界に猛威を奮っているにも関わらず、どこか燃え尽きたムードを感じる今。2021 年は目指していたゴールではなく、新たな日本がスタートする幕開けであり、先人たちが築き上げた日本らしさを新世代が更新する、そんなタイミングとなるよう前進しなければと感じています

「エンタメの火を消させない。」

感染症の影響で、日本や世界のエンターテインメント業界は依然厳しい状況にあります。中止せざるを得ないフェス、十分に観客をいれることのできない施設。大きな祭典が過ぎ去っても我々の日常は続き、毎日を豊かに生きるためにエンターテインメントは確かに人々から必要とされています。どのような時代においても、世の中に希望や喜び、未来を照らす力強い表現は逆境から誕生してきました。

「技術が、境界を溶かす。」

このような状況下でも技術の革新は、様々な境界を融解させています。ライブを家から視聴する人と、地球の裏側から出演する人。AI で復活した偉大なアーティストを、スマートフォンで見る若者世代。変化を強いられたからこそ新たな表現や仕組みの兆しが溢れ、エンターテインメント文化が技術で更新されていく瞬間に我々は立ち会っています。

「声をあげながら、手を動かす。」

他国でも技術は進化し、国境を超えた競争が行われている昨今。世界に羽ばたくためには技術を磨くだけでなく、手を動かしながら世を見渡し、声をあげながら行動すること必要とされています。良いものを作るだけでなく、良いものを良いと伝え、大切な文化を残していく重要性も日々高まっています。しかしその一方で、技術に注力しながら表現やマーケティングに労力を割くことは、難しいこともまた事実です。技術に向き合い、秘められた魅力を持つ才能を世界に解き放つのが我々の使命です。

「代理から、共創へ。」

HYTEK は、単に広告を作るエージェンシーではありません。伴走するパートナーとして、世界に通用するエンターテインメントを共創するレーベルです。レーベルという言葉はレコード中央に貼られたラベル (=LABEL) に由来し、ブランドや会社全体を指す言葉として使われるようになってきました。我々が培ってきた「世を見渡し文脈を紡ぐ PR 力」と「世に伝えるクリエイティブ力」とで、技術に言語の壁を超えたラベルを授け、その魅力を世界中にお届けします。世の中がもう一度、最高のエンターテインメントで溢れ、熱狂する日々を信じて。

RE-LABELING, 2021.09.06.

●創業メンバー

- ・満永隆哉：代表取締役 Co-CEO / Cultural Architect

2015年博報堂に入社。関西支社でプロモーション・PR戦略グループ、東京での第二クリエイティブ局を経て、テックエンタメレーベル HYTEK を設立。クリエイティブ職のプランナーとして国内外のブランドのプロモーション・コピーライティング・PR を担当。裏方として制作業務に従事する傍らパフォーマンスアーティストとしても活動を行い、アメリカ NBA 公式戦や TEDx など、国内外の様々なステージに出演歴がある。エンターテインメントの表舞台と裏方と、マスとストリートとの境界を溶かすことが目標。

- ・道堂本丸：代表取締役 Co-CEO / Technology Interpreter

2015年博報堂に入社。研究開発局、TBWA HAKUHODO を経て、テックエンタメレーベル HYTEK を設立。大学時代に、ウェアラブルコンピューティングを活用したダンスパフォーマンスシステムの開発に関わる。マーケティングツールの開発やデータ分析に従事する傍ら、AR や VR などの新しいテクノロジーを活用した次世代顧客接点の研究開発などに携わる。大学やベンチャーの持つテクノロジーの種と企業のビジネスの種を結び付けた事業創造を目指す。2016～2019年ミラノサローネ出展。